

- 1 単元名 自分のことを上手に伝えよう
教材名 構成を考えて書こう ―「私」の説明文―

2 単元の目標

- 日常生活の中から題材を選び、目的や意図に応じて構成を考え、自分の経験や考えを伝えようとする。
(関心・意欲・態度)
- 課題を決めて、材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。
(書くこと)
- 材料を分類、整理し、段落の役割を考えて構成することができる。
(書くこと)
- 漢字を正しく使い、接続詞及びこれらと同じ働きをもつ語句などに注意して説明文を書くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒観

実態調査(調査人数 男*名 女*名 計*名)平成*年*月*日実施

1 課題に対して連想する能力について調査した。調査方法は「鹿嶋市」を起点としたウェビングマップを作成させ、1分間でできるだけ多くの言葉を書かせた。結果は次のようになった。

- (1)「鹿嶋市」から連想した言葉が最小だった生徒・・・*個
- (2)「鹿嶋市」から連想した言葉が最大だった生徒・・・*個
- (3)「鹿嶋市」から連想した言葉のクラス全体の平均数・・・*個

2 材料の取捨選択能力について調査した。調査方法は、まず目の前に3人の設定の異なる相手がいること伝えた。次にそれぞれ設定の異なる3人の相手に応じて自分が伝えるべきであると考える材料を選択肢から三つ選んで記号で書かせる。3人は設定が異なるので、伝えるべき材料や伝えてはいけない材料が異なる。その判断が適切にできたかどうかを分析した。

- 3人に対して材料の取捨選択が適切であった生徒・・・*人
- 2人に対して材料の取捨選択が適切であった生徒・・・*人
- 1人に対して材料の取捨選択が適切であった生徒・・・*人
- 誰に対しても材料の取捨選択が適切でなかった生徒・・・*人

3 構成をさせ、その理由について書かせることで、構成の効果に対する理解の深さを調査した。調査方法は、まず簡単な三つの話題を示し、次に相手や状況の異なる二つの場面について、三つの話題を提示する順序を書かせた。また、その理由も書かせた。これにより、構成をする際に理由を自分なりに考えているかどうかを見取った。結果は、次のようになった。

(1) 判断の方法

- ①それぞれの場面に応じた異なる構成をしている。
- ②それぞれの場面に応じて、明確な異なる理由を書くことができている。
- A: ①, ②を十分に満たした記述をしている生徒
- B: ①, ②のどちらかを十分に満たしている生徒
- C: ①, ②の両方を満たしていない生徒

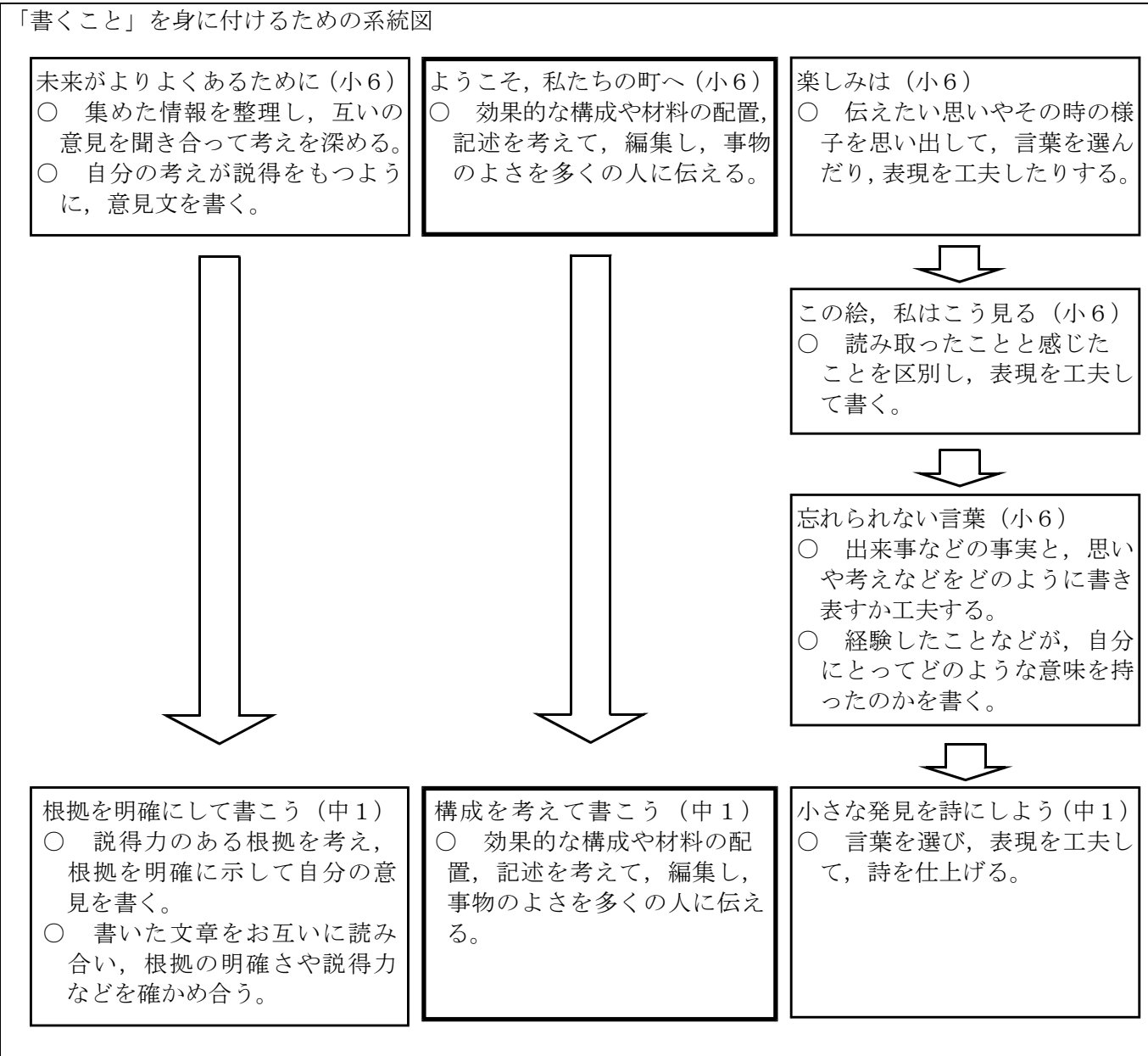
(2) 調査結果

A: *人 B: *人 C: *人

本学級で実施した実態調査の「1」から、課題決定後に行う「取材」における能力は個人差が大きいことが分かった。連想は個人の中から湧き出る物ではあるが、他者が助言することで新たな連想が生まれること

もある。ウェビングマップに取り組む学習場面では、個人の活動をグループの隊形で助言し合うように促し、能力差を解消する必要がある。

実態調査「2」「3」から、既習事項である材料の取捨選択や構成はある程度身に付いていると考える。したがって、この学習場面にはあまり時間を割かずに、効率よく単元構成をする。その分、構成の効果について話し合う学習活動を活用するように設定することで、目的や意図に沿った段落の役割や構成、構成の効果などを統合的に理解できるようにする。



(2) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領国語編「B書くこと」の指導事項(1)「ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること」及び「イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること」を受けて設定している。

前年度までに、生徒たちは「ようこそ、私たちの町へ」という単元において、効果的な構成や材料の配置や記述を考えて書く学習を行っている。それを受けて、本単元では、日常生活に関連して自分の経験や考えを書く学習を行う。

教科書では副題を『私』の説明文とし、自分自身にまつわる説明文を書くことを言語活動として設定している。しかし、生徒が「私」について語る時、単なる自己紹介の文章となってしまうがちであることに留意しなければならない。ここでは、「私」そのものについて文章を書くのではなく、日常生活の過去や未来のできごとに関して、「私」個人のものの方や捉え方を述べ、間接的に「私」について述べる説明文を書く内容として扱う。

(3) 指導観

文章を書くということは最終的に他者に読まれることを前提としている。したがって、本単元では個人の学習をグループの隊形で行う。これは、お互いの助言を促すことで、常に第三者の視点で評価するためである。

グループは4人組を基本とし、4人で別々の課題に取り組むようにする。こうすることでグループワークにおいて内容の模倣は不可能であるが、技能の模倣は可能となる状況を作り出す。

また、文章の構成を考える学習場面では、操作性のあるシンキングツールを用いることで、本来自分自身でさえ見ることができない「構想」が可視化され、グループでの交流が可能となる。その際に、説明文を書く目的や意図を詳細に想定しておくことで、構成の工夫や記述の工夫が、果たしてその目的や意図を達成するためになされているのかを話し合うことができる。

書き上げる文章は個人の作品であるが、最終的には文章は一人歩きし、作者の元を離れたところで扱われる。このことを考えると、グループ活動の機能を生かしながら、十分に鍛えられた文章にしていけるよう単元を進めていくことが実生活に結び付く学習になると考える。

4 単元の評価規準

① 国語への関心・意欲・態度	② 書く能力	③ 言語についての知識・理解・技能
・日常生活の中から題材を選び、目的や意図に応じて構成を考え、自分の経験や考えを伝えようとしている。	・課題を決めて、材料を集めながら自分の考えをまとめている。 ・材料を分類、整理し、段落の役割を考えて構成している。	・漢字を正しく使い、接続詞などに注意して説明文を書いている。

5 単元の指導計画（5時間扱い）

時	学習内容・活動	◎おおむね満足する生徒の姿 (観点：評価方法)
第1次 1	・日常生活に関する「私」を紹介する説明文にグッドモデルを読み、既習事項を振り返りながら単元の学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">自分のことを上手に伝えよう 構成を考えて書こう —「私」の説明文—</div>	◎説明文を書く学習に関心を持ち、単元の学習課題を設定している。(①②：観察)
第2次 2	・課題を決め、目的や意図を自分なりに想定して材料を集める。	◎目的や意図を自分なりに想定して、ウェブマップに材料を書き出し、分類している。(②：ワークシート)
3	・構成を決め、下書きをする。	◎目的や意図に沿うように段落の役割を考えて、効果的に構成している。(②：ワークシート)
4	・表現を見直ししながら、清書を完成させる。	◎下書きを元に、適切な表現で説明文を書いている。(②③：清書)
第3次 5 (本時)	・清書した説明文を交流して、学習した観点を元に相互評価する。	◎説明文を交流して、構成の効果について考えをまとめている。(②：ワークシート)

6 本時の指導

(1) 目標

○ 説明文を交流して、構成の効果について考えをまとめることができる。(書くこと)

(2) 準備・資料

清書用紙，ワークシート，ホワイトボード，学習の手引き

(3) 展開

	学習内容・活動	教師の支援（・）と評価（◎）
つかむ	1 本時の学習課題を確認する。 ・司会団を中心に本時の流れについて確認する。 お互いの作品を交流させ、構成の効果を使い分けられるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の手引きや黒板掲示物を活用して、前時の学習内容や本時の学習内容を確認することで、見通しをもてるようにする。 交流の目的を明確にすることで、生徒がまとめの学習活動につなげていけるようにする。
考える	2 同じ課題を選んだ生徒同士で作品を交流させ、目的や意図に沿った構成になっているかをお互いに評価する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 予想される評価 <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図を考えると、もっと必要な材料があるのではないか。 同じ課題でも、書く人が異なれば構成も異なる。 </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> T 1 <ul style="list-style-type: none"> 学習活動「2」における交流の座席表を提示し、素早く移動できるようにする。 選択した課題についてどのような構成が効果的なのかを話し合わせ次の活動につなげられるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> T 2 <ul style="list-style-type: none"> 話し合いが活性化していないグループがあったら、司会やタイムキーパーの役割を確認することで、話し合いを促す。 T 1 と情報交換しながら、次の学習活動で必要な助言を確認する。 </div> </div>
深める	3 同じ構成で書いた生徒同士で作品を交流させ、構成の効果について話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 予想される意見 <ul style="list-style-type: none"> 5 W 1 H の構成は丁寧に伝わるので、情報量の少ない相手に適している。 項目を立てて説明する構成では、並列の関係にある事柄を伝えるのに適している。 比較して説明する構成では、ある程度の情報をもっている相手に適している。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動「3」における交流の座席表を提示し、素早く移動できるようにする。 用いた構成がどのような目的や意図に対して効果的なのかを話し合わせ、構成の効果について考えが深まるようにする。 ホワイトボードを準備して話し合いに使うよう指示する。 抽象度を高めた言葉で表すように助言することで、構成の効果が汎用性のあるものとしてまとめられるようにする。
まとめる	4 自分の構成について自己評価する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 予想される記述 <ul style="list-style-type: none"> 自分は5 W 1 H で構成したが、この構成は別の課題の方が適切だったかも知れない。 自分の思いの強さや想定した目的や意図を考えると、自分の選んだ構成で正しかったと思う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の書いた説明文の構成について評価させ、自分なりの考えを書かせる。 <p>◎説明文を交流して、構成の効果について考えをまとめている。(②ワークシート)</p>
振り返る	5 学習の手引きに本時の学習内容の振り返りを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 本時に学んだことや気が付いたことについて簡潔に書くよう指示し、振り返りができるようにする。